



球美の里だより

No.6

夏休みの学童保養が始まります

沖縄・球美の里では、2012 年 7 月に福島の子どもたちの保養をスタートしてから、先日で 107 回（通常保養 106 回／パパママ保養 1 回）の保養を行いました。保養をした子どもの延べ人数は 3,600 名、保護者も含めると約 4,500 名になります。

7 月 20 日からは、小中学生を対象とした夏休みの学童保養が始まります。例年、夏休み保養は 9 日間の保養を 3 回行っていましたが、今年は 2 回、20 日間の長期保養を 1 回、いつも通り 9 日間の保養を 1 回予定しています。



▲ 106 次は全国の皆様のご寄付で運営いたしました。ありがとうございました。

今回、長期保養を行う理由は、保養をする方と保養の支援をしてくださっている方双方に、保養の効果を実感していただくためです。従来の短い保養でも、被ばくしていない環境で安心して思い切り遊ぶことで子どもたちの免疫力は向上すると考えていますが、長期の保養では、その効果が、例えば、体内のセシウム値が減少するなどの数値の面に現れて実感することができます。保養の効果がわかれば、福島での日常生活でも「被ばくの可能性のある食品は食べない」「外遊びの場所に充分気をつける」など注意していただけるようになります。

地震・原発事故から 8 年が経ち、人々の気持ちも薄らいで行く中、私たちは保養の効果を常に発信して行かなくてはならないと考えています。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。



球美の里の素敵なイラストをご紹介します



球美の里全景の新しいイラストができました。大型遊具（アスレチック）が入り、リニューアルした様子が、裏山からの鳥瞰図で描かれています。今回のイラストは、新スタッフの小堀が描きました。

球美の里を見ているのは、「アカショウビン（久米島にも住む珍しい鳥。別名「火の鳥」）」でしょうか。あるいは「キジムナー（沖縄の伝説上の精霊）」でしょうか。遠くにイーブビーチ、やちむん土炎房、パン屋の「Retreat Garden（元麦心）」も見えます。久米島で遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえてきそうですね。

Smile Smile

沖縄・球美の里では、2019年2～6月に7回の保養を行いました。
子どもたちの様子を写真と文章でご紹介します。

101 次保養 母子保養／2019年2月

イーフビーチで、みんな大はしゃぎ。冬だというのに、みんなビショビショになって遊んでいました。東北楽天イーグルスのキャンプ中でしたが、1軍は本島に移動した後、2軍の練習を見学に行きました。2年前に球美の里を訪問してくれた茂木栄五郎選手が練習していたため、みんなで声援を送りました。茂木選手は、みんなの声を聞いて、「ありがとうございます！」と大きな声で応えてくれました。



102 次保養 母子保養／2019年3月

天気も良く、子どもたちは海や球美の里で、久米島を全力で楽しんでいました。東日本大震災・福島第一原発事故の起きた日が近かったため、被害にあわれた方を追悼しました。子どもたちも一緒に手を合わせていました。



103 次保養 学童保養／2019年3～4月

春休みの学童保養です。雨が降ることがほとんどなく、イーフビーチやホテル館、登武那覇（とんなは）園地（高台にある段ボール滑りができる公園）と島内を元気に遊び回りました。ホテル館のプログラムでは、自然を五感で感じるネイチャービンゴを行いました。今回は虫が苦手な子どもが多く、見つけるたびにあちこちで悲鳴が上がりました。ビンゴが終わった後、ホテル館のスタッフから、自然の話・生き物の話を聞いた後は、みんな真剣に命のことを考えるようになり、球美の里に戻ってから虫が出てきても驚く声は減りました。



104 次保養 学童&母子保養／2019年4月

4月1日に海開きになった久米島で、海開き後初の保養です。まだちょっと寒かったようで、気合を入れて水着を着ていったものの、すぐに寒くなり、浜で砂遊びをしました。また、以前キッチンで働いていたネーネー（沖縄の言葉で年上の女性のこと）の紹介で、久米島の伝統芸能に触れる時間がありました。民謡・舞踊・琴・三線など久米島にいてもなかなか見ることができないもので、とても貴重な時間となりました。



105 次保養 学童&母子保養／2019年4～5月

連休中の保養です。母子保養と学童保養のミックスでした。球美の里で過ごし始めて数日経つと、小学生が小さな子どもと一緒に遊んだり、一緒にプログラムに参加したり、生活面をサポートしたりしてくれるようになりました。ありがとう！ とても温かく穏やかな保養になりました。



第1回パパママ保養／2019年5月

初めてのパパママ保養を行いました。期間は4日間、久米島は正味2日です。そのうち1日はフリーデー、もう1日はイーフビーチの海遊びとシーサー作りを楽しんでいただきました。夕食はパパも協力してのバーベキューでした。家族で一緒に過ごす時間が心地いいのでしょう、笑顔の絶えない保養となりました。



106次保養 母子保養／2019年6月

梅雨真っ最中、帰る前の日まで雨という天気予報の中、雨が上がっているときに海に行ったり、シーサー作りに行ったりと、天気の様子を見ながらの保養となりました。室内でのプログラムが多くなることが予想されたので、ピラミッドにある遊具をみんなで楽しもうという試み、「ニキティキデー」をやりました。ピラミッドで遊ぶおもちゃをたくさん寄付してくださっているアトリエニキティキさんに感謝を込めてのネーミングです。ニキティキデーの後、子どもたちの「ピラミッド行きたーい」の声が大きくなりました。「行っていーいよー」と言うと、はしゃいで出かけていき、心ゆくまで遊んでいました。



～保養に参加されたお母さんとお子さんからのお手紙～

(要約) 福島では放射能に対する不安から、「土に触らないで」「水たまりに入らないで」と、子どもたちの遊びに制限をかけ

てしまいます。球美の里では、子どもたちを自然の中でのびのびと遊ばせることができました。とても嬉しいです。感謝申し上げます。

ご支援下さった方へ
この度は、ご支援下さり、誠に有難うございました。普段、外で遊ぶこともありますが、「土には触らないで」「水たまりに入らないで」と、放射能に関する不安から、つい制限をかけてしまっています。今回、久米島に保養に来たから、そのような不安を感じることもなく、子供たちに自然の中でのびのびと遊ばせることができました。土いじりしたり、かにつむり探したり、海に足を突っ込んで遊んだり... 普段できないことがたくさんありました。久米島ならではのプログラムも楽しかったです。地元の方たちとの交流もでき、子供にとっても、親にとってもかけがえのない経験となりました。
短い期間でしたが、放射能を気にせず、思いっきり体を動かして楽しむことができて、遊ぶ子供の姿を見ることで、とても嬉しい気持ちでいっぱいでした。
保養に参加できて本当に良かったです。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。



☆沖縄・球美の里での保養の様子は、球美の里のブログ (<http://kuminosato/blog.fc2.com>) でご覧いただけます。球美の里のホームページ (<https://www.kuminosato.net>) から入っていただくか、検索サイトで「球美の里保養日記」で検索していただけます。ご覧ください。

久米島事務局より

球美の里に倉庫が設置されました

子どもたちが遊ぶボールや縄跳び・卓球台、砂遊びの道具などが入っています。また、台風の時期になると、普段は外に置いてあるものも風で飛ばされないようにするため、倉庫が大活躍となります。



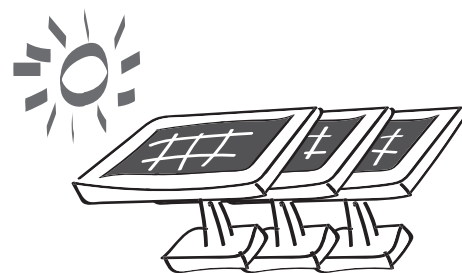
岩山の補強工事をさせていただきました

2019年3月に、久米島町にお願いをし、球美の里の岩山の補強工事をさせていただきました。荒天が多くなってきていて、昨年、久米島町でも崩落事故が起きていたからです。おかげで子どもたちが安心して球美の里で過ごすことができます。久米島町の皆さん、誠にありがとうございました。



太陽光パネルの使用認可待機中

球美の里だより No.5 で、太陽光パネルについて記載しました。太陽光パネルを設置し売電するためには経済産業省の認可が必要となります。2019年6月現在この認可が下りていないため、まだ実用段階に至っていません。



球美の里・プログラム紹介

たのしいがいっぱい！

① イーフビーチ

イーフビーチは、日本の渚100選にも選ばれるとても美しい砂浜です。球美の里からバスで10分くらいで到着します。毎回の保養で必ず行くビーチです。

冬は砂遊びをしたり、波打ち際で足をパチャパチャしたり、時には綱引きで真剣勝負をしたりします。

夏はもちろん泳ぎます。子どもたちの安全を考え、球美の里の子どもたちはライフジャケットを着用して泳ぎます。ぶかぶか浮いて楽しんでいる子、ゴーグルをつけて魚を探し回っている子、鬼ごっこしている子、子どもたちは自由に海を楽しみます。

海のプロプログラムから戻ってくるとみんなクタクタ。いつもは騒がしい就寝前も、海のプロプログラムがあった日はあつという間に夢の中です。

スタッフは、子どもたちが安全に海遊びができるようにスクラムを組んで見守りを行います。

冬は、子どもたちの近くで、子どもたちが転んで怪我したり、潮に流されないように見守りをしています。

夏は、海の事故を防ぐため、綿密に打ち合わせをして、役割を決めて見守りを行います。まず、泳いでいい範囲を決めて、スタッフが海の中に立ってロープを張り、子どもたちはその中で泳ぎます。スタッフは、泳いでいたり、遊んでいたりする子どもに異変がないかを、子どもたちの近くで見守ります。長時間、海の中で行動するため、体力勝負となります。また、海泳ぎで疲れたり、水温が低くて体が冷えた子どもは、浜で砂遊びをしますので、熱中症にならないように、砂浜でも見守りを行います。



たらちね・こども保養相談所から

私は 2014 年 2 月にたらちねに入り、ガンマ線・ベータ線測定、甲状腺検診を担当し、現在は保養事務を担当しています。

12 歳と 3 歳の男の子の母親で、働きながら子育てをしています。家庭と仕事の中で、日々戦いの毎日です。長男は反抗期、次男はイヤイヤ期、そして私は更年期と大変です。

東京電力福島第一原子力発電所の事故から 8 年が経ち、事故の記憶も人々の中から薄れていく日々。福島の放射能汚染問題は今も続いており、福島で生活している以上向き合わざるをえない問題です。毎日の生活の中での衣や食は、たらちねで毎日測定をして実態を知っているのが気をつけています。

次男はこの 4 月から保育園に通い始め、唯一の楽しみは給食です。朝、保育園の下駄箱でくつを履き替えて一番に、職員室前に掲示されている献立表を私に見るよう指示します。今日は「カレーだよ」と言うと、さっきまで泣きそうな顔だったのが急に笑顔になります。献立表の脇に、給食の放射能検査の結果の数値が張ってあり、不検出と書いてありますが、私はその数値を見て安心はできません。

日本の食品の放射性セシウムの基準値は、原発事故後に設定された 500 ベクレルから 100 ベクレルと低く改定になりましたが、ドイツの民間団体ではこどもが 4 ベクレル、大人が 8 ベクレル以上のセシウム 137 を含む飲食物を摂取しないことが推奨されています* 1。ドイツに比べればまだまだ高いのです。しかも、いわき市の放射性セシウムの基準測定下限値は、1kg 当たり 20 ～ 25 ベクレル/kg と、不検出でもドイツの民間団体で推奨されている値より高いかもしれないのです。

* 1: 2011 年 3 月 20 日にドイツ放射線防護協会から出された提言より。
http://www.inaco.co.jp/isaac/shiryo/pdf/genpatu/20110320_doitu.pdf

こうした身近なところからの内部被ばく、外部被ばくは今後も続く問題で、どこに基準を置くか、自分の中での基準をどうするかの問題だと思います。

先日、保養のチラシ配布の許可をとるために、福島県内の各学校にお電話し、校長先生にお話をしました。ある学校では「保養って何ですか？」と質問をされました。また空間線量の高い地域の学校なのに、「もう大丈夫なので結構です」と断る先生もいました。「どうして」と電話を切ってから怒りを感じました。

私の上の息子は沖縄・球美の里の保養に 3 回参加しています。自宅は海から近くで、原発事故前は家族で海水浴が夏の楽しみであり、私も幼少期から海は大好きでした。今、地元では海開きをしており海水浴はできますが、砂浜の測定結果を見ると、自分の子どもたちを海に入れることはできないと感じます。

球美の里がある久米島の綺麗な海で、息子が元気いっぱい海に入ることができることがとても嬉しく、楽しく、久米島で遊ぶ息子の笑顔の写真がリビングルームに飾ってあります。みんながいい写真だと言ってくれます。

これから、この福島で生活していく中で、何をして何ができるのか、と考えたとき真実は何なのか、これは本当のことなのかを自分で確認し判断できる知識を大人が持っているにしないといけないと思います。未来の子どもたちのためにも、大人が責任をもって生きていくことが大切だと思います。

根本富実子

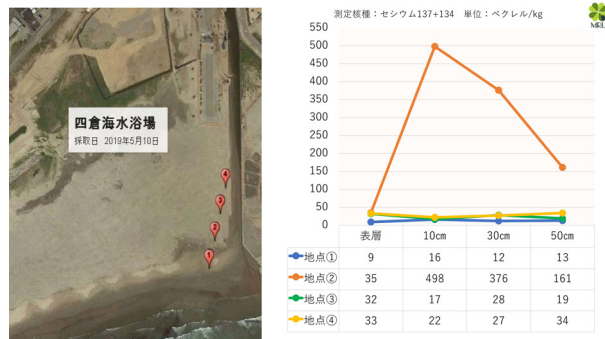
■食品基準値

暫定基準値	飲料水 200 Bq/kg 	一般食品 500 Bq/kg (牛乳、乳製品は200Bq/kg) 		
新たな基準値 2012年4月1日～	飲料水 10 Bq/kg 	一般食品 100 Bq/kg 		
パルシステムの基準値	飲料水 10 Bq/kg 	乳製品 10 Bq/kg 	米 10 Bq/kg 	畜肉・肉・卵・魚介・その他 25 Bq/kg 
ドイツ放射線防護協会	乳児、子ども、青少年 4 Bq/kg 	成人(17歳以上) 8 Bq/kg 		

▲以下の数値より、たらちねで作成。

- 厚生労働省が 2012 年 3 月 29 日に発表した資料より（ホームページで「厚生労働省」→「東日本大震災関連情報」→「食品中の放射性物質への対応」→「基準値の設定～平成 24 年 4 月から～」の項目の「さらに詳しい情報」→「食品衛生法上の基準値」の項目の PDF（どれでも））
- パルシステムのホームページ (<https://www.pal-system.co.jp/item/radiation/>) より
- 註 1 に記載したドイツ放射線防護協会からの提言より

■海砂の測定結果



▲今年 5 月、いわき放射能市民測定室による測定結果より。

たらちねのホームページ <https://tarachineiwaki.org> から「放射能の測定」→「測定結果」→「海砂の測定結果」の「2019 年測定結果」参照（四倉の他に、波立、薄磯、勿来、原釜（3 月測定）の海水浴場の測定結果あり）

福島の子どもの養育者アンケート結果報告

前号で速報をお伝えしましたように、福島の子どもの養育について、保護者の方々が現在どのように考えていらっしゃるかを尋ねるアンケートを、2018年12月に実施しました。

これまで沖縄・球美の里で養育されたことのあるお子さんの保護者の方2,369名に、たちね・こども養育相談所を通じてアンケートをお送りし、ご回答いただきました。

今年1月15日までに戻って来たアンケートは323通で、そのうち、293通の結果をボランティアの方へ入力・グラフ化していただき、中間報告として前号でご紹介いたしました。

その後、回答のないアンケートもあり、最終的には18通を加えましたが、質問1～5までの回答の状況は、速報でお伝えしたものと同様でした。お子さんを持つ多くの方が、今も放射能の危険性を感じながら暮らしていることは、よくわかりました。

質問6は、最初にお子さんの年齢と男女を聞いているのですが、設問の形式に不備があり、数値としては集計でき

ませんでした。回答にお手数をおかけしましたのに、大変申し訳ありません。コメントの一部を紹介させていただきます。

7番の質問は筆記形式でしたが、多くの方がコメントを書いてくださいました。複雑な思いをいいただきながら書かれたこと伺えるような文面が多々ありました。

アンケート結果を拝見して、球美の里としましては、放射能への不安を持って日々暮らしている福島の子どもの養育と保護者の方々の支援する活動を、これからも続けて行く必要があると改めて確信しております。みなさまからお寄せいただいた貴重なご意見・ご希望を、今後の養育に生かしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

暮れのお忙しい中、コメント欄にびっしり書くなどご協力くださった方々、ありがとうございます。ニュースレターの紙面では、コメントは一部しか掲載できませんが、ネットなどでの全文の公表を、今後検討したいと思います。ご協力をありがとうございました。

質問1 子どもの食べ物 <table> <tr> <td>A 今でも県産品は食べさせない</td> <td>7.7%</td> </tr> <tr> <td>B 特に気にしていない</td> <td>36.7%</td> </tr> <tr> <td>C 検査済み食品など何らかの選択はしている</td> <td>53.4%</td> </tr> <tr> <td>D 無回答</td> <td>2.3%</td> </tr> </table> *回答の要約：半数近くが「県産品は食べさせない」「検査済み 食品を利用」と答えている。	A 今でも県産品は食べさせない	7.7%	B 特に気にしていない	36.7%	C 検査済み食品など何らかの選択はしている	53.4%	D 無回答	2.3%	質問2 子どもの外遊びについて <table> <tr> <td>A できるだけ外遊びはさせない (気にしながら遊ばせている人を含む)</td> <td>29.3%</td> </tr> <tr> <td>B 気にしないで外遊びをさせている</td> <td>67.5%</td> </tr> <tr> <td>C 無回答</td> <td>3.2%</td> </tr> </table> *回答の要約：約30%の方が、今もまだ外遊びを控えさせている。	A できるだけ外遊びはさせない (気にしながら遊ばせている人を含む)	29.3%	B 気にしないで外遊びをさせている	67.5%	C 無回答	3.2%		
A 今でも県産品は食べさせない	7.7%																
B 特に気にしていない	36.7%																
C 検査済み食品など何らかの選択はしている	53.4%																
D 無回答	2.3%																
A できるだけ外遊びはさせない (気にしながら遊ばせている人を含む)	29.3%																
B 気にしないで外遊びをさせている	67.5%																
C 無回答	3.2%																
質問3 放射能に対する不安 <table> <tr> <td>A 放射能の不安を強く感じる</td> <td>26.0%</td> </tr> <tr> <td>B 放射能の不安を少し感じる</td> <td>63.0%</td> </tr> <tr> <td>C 不安を感じていない</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>D AとBの間(不安をかなり感じる)</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>E 無回答</td> <td>1.0%</td> </tr> </table> *回答の要約：約90%の方が、放射能に対する不安を今も持っている。	A 放射能の不安を強く感じる	26.0%	B 放射能の不安を少し感じる	63.0%	C 不安を感じていない	9.6%	D AとBの間(不安をかなり感じる)	0.3%	E 無回答	1.0%	質問4 甲状腺検診は今後も必要か <table> <tr> <td>A 続けた方がいい</td> <td>92.6%</td> </tr> <tr> <td>B 必要ない</td> <td>5.8%</td> </tr> <tr> <td>C 無回答</td> <td>1.6%</td> </tr> </table> *回答の要約：90%以上の方が、甲状腺検診は今後も必要と考えている。	A 続けた方がいい	92.6%	B 必要ない	5.8%	C 無回答	1.6%
A 放射能の不安を強く感じる	26.0%																
B 放射能の不安を少し感じる	63.0%																
C 不安を感じていない	9.6%																
D AとBの間(不安をかなり感じる)	0.3%																
E 無回答	1.0%																
A 続けた方がいい	92.6%																
B 必要ない	5.8%																
C 無回答	1.6%																
質問5 養育は今後も必要か <table> <tr> <td>A 必要と思う</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>B 不要と思う</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>C 無回答</td> <td>5.8%</td> </tr> </table> *回答の要約：85%以上の方が、今後も養育は必要と考えている。	A 必要と思う	87.5%	B 不要と思う	6.8%	C 無回答	5.8%	*総回答数311／小数点1位までの四捨五入のため100%にならない場合もあります。										
A 必要と思う	87.5%																
B 不要と思う	6.8%																
C 無回答	5.8%																

[質問6] 将来の子どもの健康について、どう感じていますか？
また何が必要な支援とお考えですか？(コメントの一部を紹介します)

* 心配のない場所での養育
* 定期健診の補助
* わからないが結婚して健康な子供を授かった時、漠然とした不安が消えるような気がします。娘2人なので大人

になり子供を出産した場合の健康や子供の影響は常に気になります。そのような相談に応じてくださる方が身近にいてくれたらと思います。
* 子どもの成長には個性もあり、それが何に起因す

るものなのかは分からないので、気にするほうが疲れてしまい、今は将来の健康について考える余裕はありません。

- * 今は特に症状は出ていませんが、長い目で見守ってほしい。球美の里のような受入れが今後も続きますように。
- * 健康に関して、必要なこと（保養、食べ物、アロマケア、ミネラル接種、）は今後も続けていこうと思います。その中でサポート施設（ベラルーシにあるような形に似た）があると本当に素晴らしいと思います。
- * 甲状腺検査の数値が出るたびにほっとしたり、ハラハラしたりしています。心配です。赤ちゃん大好きな子なので無事大人になって元気に出産してほしいです。保養支

援は必要と思います。

- * 今現在も身の回りに有害なものが多いと感じているので、将来いろんな所から害が出てくるのではと不安。
- * 少し不安がある。
- * 肥満予防と改善。
- * 特に心配していない。
- * 現状、当地では特に気にすることもなく生活しているが、周囲が福島に対してどう思っているかという点において、正しい情報発信による理解が必要だと思う。
- * 心のサポートなど。
- * どんな影響が出るのか、影響がでた場合医療面でのサポートが必要（費用も含めて）。



【質問7】オリンピックを控え、福島は安全になったという意見が広がっていて、不安を口にすると、風評被害を広げるという批判もあります。それについてどう思われますか？（コメントの一部を紹介します）

- * 事実は事実として、本当のことを言葉にしていくことは大切だと思います。その上で、本当に風評であることについては明確にしていくことが大切だと思います。
- * まだ、原発問題は終わっていないのに安全になったとは思っていない。風評被害について、広げる広げないとかではなく、真実を伝えれば良いと思う。8年後、良くなったこと、悪いままのところ、すべて今の福島だと思う。
- * 風評被害がなくなるように、除染や検査に力をいれていくしかないと思います。2年後の福島がどうなっているか、全国の人に見てほしいです。
- * 価値感の違いもあり、とても難しいと思います。オリンピックを機に本当に安全であればそれを発信する良い機会だと思います。
- * オリンピック自体期間が短いので、正直海外から短期間福島に滞在したからといって大変な害があるとは思えないので開催しても大丈夫だと思っています。
- * 安全、安心の基準は人それぞれ。人と同じでないと異質な扱いをされるのは理不尽。安全だと思う人、不安の残る人どちらでもよいと思うし、その思いは尊重されるべき。
- * 批判は気にしません。安全になったと思っていません。思ったことを口にするのは当然の権利だと思います。
- * 風評被害が一番困る。不安に対する正しい解答、説明してほしい。
- * 畑や山を除染していないため、安全とは言えない。風や雨なので数年後に影響が出るか心配。今はなかったことにされているように感じるが、まだうめたてた土を掘り出している様子を見るとなかったことにはできないし、精神的ストレスはものすごいものだった。そのためストレスで病気になる事もあると思う。福島の人はいいたい事はいっぱいあるがつかったことを思い出す事になり言いたくないし今後言ってもどうにもならないから言えな

い。汚染がひどい地域の人はたくさんお金をもらって幸せに暮らしているのに……。同じ汚染された土地にすんでいるのにほとんどお金をもらえなかった人もいて格差がありすぎて不満をとおりこして悲しくなる。

- * 食べ物は検査すれば分かるが、体内の事はよく調べないとわからないし、成長すると今後どうなるか分からない。将来の事もあるので、完全に安全とは言えないと思う。
- * 今の福島県を一人一人自分の目で見て確かめてほしい。安全ではないことを見てほしい。
- * 安全と言い切るのはできないと思う、線量が出ているエリアも多くありますし、不安を口にすると、風評被害を広げるという批判の部分では、以前以上に肩身のせまい思いをしているし、口にする人がバカだとか神経質だと思われる世の中はどうかしていると思う。日本国は事がおきてからでないと動かない国なのです。悲しいです。
- * なぜ福島で行なうのか不思議です。こうするからこそ、逆に原発を思い出させてしまうのではないかと思います。
- * 不安を広げるとはどういうことかと思います。不安か不安でないか個々で意見が変わりますし、その方の想いを批判するのはよくないかなど。でも、福島で開催されることについては、自信を持って福島はステキで、みんな生き生きがんばっていることを伝えて、オリンピックを楽しんでほしいとも思う。
- * 県外の人はどう思われているかよりも、今県内に住んで子育てしている方がより安心してしまおうのが心配です。正しい知識を持ち正しく対処していくことでリスクを減らせると思います。批判があっても声を上げていくべきです。

イベントの報告・案内

<https://zenkoku2.jimdofree.com/2019/03/22/3-21> さようなら原発全国集会 /

球美の里も、「避難の協同センター」「福島原発刑事訴訟支援団」のご厚意により、ブースの一角をお借りできました。急な呼びかけにもかかわらず、ボランティアさん3名が駆けつけてくれて、球美の里チャリティーグッズを販売しました。また、「チェルノブイリ子ども基金」「未来の福島こども基金」主催の救援イベントが目前だったこともあり、チラシ配布もしました。みなさん、とても気持ちよく受け取ってくださいました。

毎年4月26日前後に開催しているイベント。今年は、高木学校・原子力教育を考える会のメンバーで元放射線医学総合研究所主任研究官の崎山比早子さんの講演が中心でした。「原発事故から8年 福島における小児甲状腺がんの多発」というテーマでのお話で、大変わかりやすく、また将来を思うと怖い内容でした。「今の小児甲状腺がんの発生状況と国の施策のギャップがよくわかった」という声に代表されるように、満員の観客は大満足だったようです。質問もたくさんあ

り、それらにも丁寧にご回答くださいました。チエルノブイリ子ども基金の web に、講演会の動画、資料、質問と回答など、掲載されています。ぜひご覧ください。<http://ccfj.la.coocan.jp/2019-kouena.html>

また、チェルノブイリ子ども基金の佐々木真理事務局長、
未来の福島こども基金の黒部信一代表によるチェルノブイリ
と福島の子どもたちについての話もありました。

2011年の3月11日以降、2年に1度開かれているというチャリティコンサートが、6月3日に開催されました。未来の福島こども基金の支援者の方から声をかけていただき、球美の里で保養している子どもたちの写真を展示しました。石巻の津波被害者を支援しているグループも写真を展示してい

ました。500 席以上の会場は満員で、球美の里のパンプレットもプログラムと共に配布していただきました。多くの方がこうやって、震災を忘れないようにさまざまな取り組みをされていることに改めて感謝を感じ、ピアノコンサートを鑑賞させていただきました。

このイベントは、大震災の被災地、南三陸町の漁村に縁のあるご夫妻が被災地支援のために始めたカラオケ大会で、通常のカラオケ大会では入賞者に出す賞金や賞品にかかるお金を、被災地に寄付するというチャリティーイベントです。そ

の寄付金のうちの一部を、第1回目から球美の里にも寄付してくださっています。今年も、球美の里の保養のボランティアをしている羽田ママのメンバーが手伝いに入り、球美の里の報告もさせていただきました。

「藤井ようことフクシマ応援隊」の皆さんが震災後ずっと続けてこられた支援コンサートの11回目として、メゾソプラノ歌手の保多由子さん、ギタリストの鈴木大介さん、ピアニストの寺嶋陸也さんによるコンサートが、東京・町田市のホールで開催されました。保多さんの歌の優しくて強いメッセージが心に響き、300名満席の会場は温かさに包まれていました。

球美の里へは、第2回のコンサートの時から寄付をいただいています。ありがとうございます。今回も、球美の里としてメッセージを伝えさせていただき、また、ロビーに球美の里の保養の写真を少し展示させていただきました。「保養という活動を初めて知った」という方も多く、より一層の広報活動の必要性を感じました。

チェルノブイリ子ども基金の顧問で、未来の福島こども基金代表、球美の里の理事も務めている黒部信一ドクターは、いわき市のたらちねクリニックオープン後、毎月2回、診療に通っています。持論の「病原環境論」などをじっくりお話

くださいました。未来の福島こども基金の web に当日の資料が掲載されています。

<http://fukushimachildrensfund.org/>

Information

★沖縄・球美の里の保養が全 107 回となりました★

球美の里での保養が、この 6 月までで 107 回（通常保養 106 回、パパママ保養 1 回）となりました。保護者も含めた保養人数は約 4,500 名と、大勢の方が保養に参加しました。これまで続けてこられたのは、ご支援くださっているみなさまのお陰です。篤くお礼申し上げます。

今年度は全 15 回、今後はあと 11 回の保養を予定しています。地震から 8 年が経ち、福島の様子も、人々の思いも変わって来ています。その中で、どのような保養を行うのか、続けて行くのかを常に考えて、進んでいかなくてはならないと考えています。今後ともよろしく願いいたします。

★球美の里の総会を開催しました★

2019 年 6 月 1 日に、球美の里の第 7 回定期総会を新宿区の施設で開催しました。2018 年度の事業報告・決算報告、2019 年度の事業計画案・収支予算案などを決議し、無事に終了しました。

2018 年度は、経常収益が 102,736,205 万円（うち受取寄付金 96,107,911 万円、受取助成金 2,560,000 円など）、経常費用が 83,578,441 円（事業費＆管理費）ですが、この中には原価償却費 845 万円などが含まれています。2018 年度は単年度黒字となっていますが、DAYS 被災児童支援募金の活動閉鎖に伴う寄付金 3 年分（今年度含む 3,000 万円）の支援金をいただいているからです。将来の運営費ですので、理事・スタッフ一同、心して運営したいと思っています。

3 月より東京スタッフの人員が増えました。今後はより一層、助成金獲得、広報などの仕事に努めたいと思っています。

久米島事務局からは、保養の様子が動画で紹介されました。また、大型遊具の設置やリニューアルした施設についての報告がありました。

たらちね・こども保養相談所からは、「保養の目的が見えにくくなっている。役所とかではなく、一般の人々の中から保養の意味が問われている。精神論ではなく、科学的な意味での問われ方がなされている。保養の科学的な効果について、汚染の可視化について求められている。その意味でこの夏の 20 日間という長期保養を計画した。現実には福島県内での汚染は続いており、中通りは汚染が大きい。しかし、避難することが認められていない。その状況の中で、精神的に苦しんでいる人が多くなっている。必要性を訴えても、祖父母など親戚などから批判されたりする。短期間の「息抜きとしての保養」、の必要性も考えて行く時期なのかもしれない」と、球美の里の窓口として、またいわき放射能市民測定室の事務局局長も務める、副理事長の鈴木薫より報告がありました。

※詳細な会計報告（活動計算書・貸借対照表など）は、球美の里のホームページ「沖縄・球美の里について」→「収支報告」でご覧いただけます。

★ご寄付のお礼とお願い★

東日本大震災による福島第一原発事故により 8 年が経ちました。避難地域への帰還も政府の手で進められていますが、子どもたちの保養はこれからますます必要になると考えています。総会報告で述べましたように、改めて、保養の意義・意味を考える時なのかもしれません。

つい最近の山形・新潟の地震に続き、あちこちで地震が頻

発しています。いつまた大きな事故が、と、不安な思いの人たちもたくさんいます。一方、福島原発事故について、メディアの報道が少ない、という状況もあり、社会的な関心は低くなっています。球美の里への寄付金も徐々に減少しています。どうぞ、今後ともみなさまからの引き続きのご支援をお願いいたします。

◎ご寄付いただいたみなさま（団体からのご寄付・2019 年 1～6 月／順不同）

※紙面の都合により寄付金をいただいた団体のみ記載させていただきます。

※リサイクル品や web 上でウィッシュリスト公開後、いろいろな品物を多くのみなさまより提供していただいています。お名前を掲載できませんが、ご了承ください。

オフィス音夢、フライブルグ市民大学(ドイツ)、カトリック藤沢教会、ひばりが丘グレイス教会、フクシマ応援隊、カトリック花園教会、パンを割く会、ジャパンカインドネス協会（プロゴルファー上原彩子ゆび募金活動）、儀間建設、日本キ

リスト教団首里教会、ゴスペルクロニクル、ドルトムント独日協会（ドイツ）、スイスヴェーデンスヴィル財団（スイス）、未来の福島こども基金、キッチンファイブ、デイズ被災児童支援募金、宮ノ前ハイツ 喜楽会、彩雲リーディング、WE21 おだわら、カフェ・ベルク、ギフトショップくすの樹、ウイズアス・プロジェクト（羽田ママ）、K コーポレーション、ドテラジャパン、Japan Bazar Bremen 2019（ドイツ）、Mark Akixa Office、ギター弦の会、海想、ロバ企画室、比嘉内装、生活協同組合パルシステム東京、アトリエニキティキ

沖縄・球美の里への寄付口座／クレジットのご案内

ゆうちょ銀行	00160-6-634014 口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
三菱UFJ銀行	高田馬場支店(053) 普通 1231737 口座名 特定非営利活動法人 沖縄・球美の里
クレジットで決済 (PAYPAL)	沖縄・球美の里のホームページ「寄付する」からお申し込みいただけます。

＊ 2019年8月より、ゆうちょ口座から毎月自動的にご寄付いただくことが可能になります。一度お手続きしていただくと、ご寄付のたびに郵便局から振り込むお手間がなくなります。ご希望の方に専用の「自動払込利用申込書」を東京本部より送りますので、お問い合わせください。

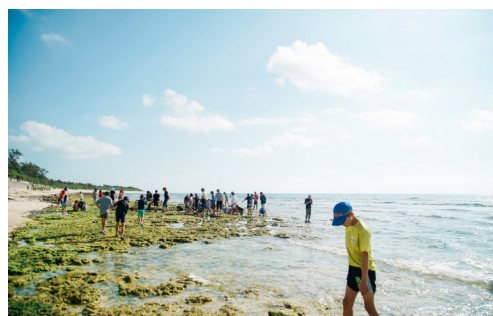
＊ お願い: 寄付をしてくださった方は、払込用紙に「ご住所・ご氏名・ご連絡先の電話番号かメールアドレス」をご記載くださいますようお願いいたします。払込用紙を使わない場合（ネット送金など）は、お礼のご連絡や領収書のご送付のため、ご寄付くださった旨、お電話かファックス、メールでお知らせください。お手数をおかけしますが、よろしくお願いします。

＊ 認定 NPO 法人への寄付の寄付控除について：会社や団体、個人が認定 NPO 法人に寄付された場合、所得控除・税額控除の対象になります。球美の里も活動内容が認められて、2015年7月に認定をいただくことができました。控除を受ける場合は、領収書が必要となりますので、寄付をしてくださった際に球美の里の東京本部からお送りする領収書を保管の上、確定申告をしてください。詳細は、地域の課税窓口か球美の里までお問い合わせください。

ご支援・応援ありがとうございます。

◎ラッシュジャパン公式チャンネルで 沖縄・球美の里の紹介ビデオを公開中

球美の里の支援パートナー「ラッシュジャパン」が昨年末に球美の里を訪問された際に取材して作ってくださった球美の里の紹介ビデオが、「ラッシュジャパン」社の公式チャンネル上で公開されています。タイトルは、「Field Notes：放射能から日本で一番遠い島」です。福島県いわき市の「いわき放射能市民測定室たらちね」も紹介されており、とても真摯なレポートとなっています。以下で閲覧できますので、ぜひご覧ください。 <https://jn.lush.com/article/field-note-kumejima-fukushima>



▲球美の里の保養のプログラムの一つ「磯の生き物観察」の様子（ラッシュジャパンの公式サイトより）

◎沖縄テレビで紹介していただきました

地元の沖縄テレビが、今年1月に保養100回目を迎えた球美の里を取材していただきました。沖縄の歌手古謝美佐子さんが出演してくださった保養100回記念コンサートの様子などを、「久米島"球美の里"～島の優しさで福島の子どもに安らぎ～」と題して、1月22日（火）に放映していただきました。

球美の里100回記念のコンサート取材している沖縄テレビのスタッフ（右端）▶



◎DAYS（デイズ）被災児童支援募金にご寄付くださったみなさまへ

球美の里は、これまでDAYS被災児童支援募金より多額の寄付をいただけてきました。球美の里の2012年の開設当初から2019年3月まで、球美の里への寄付総額は2億6千万円を超えています。募金閉鎖に伴い、今後3年間分の学童保養の支援金をいただきました。ありがとうございました。福島県及び近隣の汚染地域状況は、まだまだ厳しい環境にあります。球美の里では、今後も子どもたちの健康を守るための活動をできるだけ続けて参ります。DAYS被災児童支援募金にご寄付くださったみなさまのこれまでのご支援に心からお礼を申し上げますと共に、今後とも応援していただきますようお願い申し上げます。

◎沖縄カカオプロジェクトでご支援いただくことになりました

「チョコづくり未来づくり 沖縄産カカオの夢」として、沖縄カカオプロジェクトが始まりました。「沖縄でカカオを栽培してチョコレートなどカカオ製品を作ろう、そして、障がい者や一般就労の困難な方々の仕事をつくろう、その収益で福島の子どもたちを支援しよう」という熱い思いで、フェアトレードの活動をされてきた方々が立ち上げてくださったプロジェクトです。最初はインドからカカオ豆を輸入してカカ

オ製品をつくり、そのうち久米島で収穫できたカカオ豆でチョコレートを！という大きな夢を抱かれています。

この夢を応援する会員「カカオフレンズ」になると、ギフトボックスの詰め合わせが届きます。製品の中には、「球美チョコ」があり、球美の里への寄付 500 円が含まれています。皆さんも、カカオフレンズになって、応援していただませんか。

詳細はこちら→ <http://verda.bz> (HP)



寄稿ショートコミック



ママサイエニティスト

Haruno Kobori

子どもたちのために、誠実に未来と向き合いたい。

フラスコを手にとった
母親たち。

この作品はフィクションですが、作者による球美の里や
たらちねへの実際の取材に基づいて制作しました。

子どもたちへ

大事なことが隠される
世の中でごめんなさい。



他人の人生のことを考えられない
人たちがたくさんいる
世の中でごめんなさい。



でも、私たちは、
子どもたちと未来のために
できることをします。

悲しみや怒りを生む行為に対して、
声を上げて欲しい。



過ちに鈍くなったり、隠さないで。
私たちは、人々の幸せのために、今後もデータを記録し続け、
そして二度と同じ過ちを繰り返さないよう、伝え続けていきます。

一度しかない人生、誠実に。
そしてしっかり楽しんで!

母より



★ボランティアのお礼とお願い★

久米島での保養も100回を超え、たくさんのボランティアの方々にご協力をいただきました。本当にありがとうございます。ボランティアの方々の協力なしに、保養を続けることはできなかったでしょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

100次にお手伝いくださったボランティアの方からのメッセージをご紹介します。

「久しぶりにうかがいましたが、いろいろなところが改善されていて、子どもたちが楽しく過ごせる工夫が更にされていると感じました。例えば、女子トイレの音楽などは、子どもたちがいかに安心して、そして健

康的に暮らせるのか、いつも真っすぐ向き合っているからこその対応だと思いました。備品も充実しているし、私たちボランティアもいつも快適に生活させてもらえる環境が整っていると思います」

沖縄・球美の里では、引き続きお手伝いをしていただけるボランティアの方を募集しています。お手伝いいただきたい内容は、久米島での子どもたちのお世話（保養実施時）と、東京本部での事務・発送作業のお手伝いなどです。興味・関心のある方は、東京本部までご連絡ください。

★球美の里の出張講座★

球美の里では、球美の里のことをより多くの方に知っていただくために、大学などの学校や各種団体・グループなどへ出張講座をしています。お話を聞いてくださった方が、その後、久米島にボランティアにきてく

ださっています。とても嬉しいです。出張講座のご希望がありましたら、東京本部までご連絡ください。お待ちしております。

★球美の里のNEWS LETTER『球美の里だより』6号を発行します★

球美の里のニュースレター『球美の里だより』6号をお届けします。球美の里のご支援を続けてくださっているみなさま、ご一読いただき、ご意見やご感想をお寄せください。また、ご家族やご友人にもご紹介いただき、球美の里への支援の輪をさらに広げていただけるとありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

このニュースレターは、球美の里のホームページでカラーでご覧いただくことができます。「ニュースレターはホームページで見るので、送付不要」という方は、球美の里の東京本部までご連絡をください。

☆ 連絡先：沖縄・球美の里 東京本部

メールアドレス：Tokyo@kuminosato.net

電話：03-6205-6139 FAX：03-6205-6140

※ メールやFAXをいただく際には、ご住所・お名前もご記入くださいますようお願いいたします。

※ 『球美の里だより』は年数回の発行を予定しています（不定期）。

※ 球美の里を紹介する三つ折パンフレットをリニューアルしました（Web閲覧可）。また、ご寄附くださる方の便宜を考慮して郵便局の払込用紙を同封させていただきましたが、寄付を強要するものではありません。配布にご協力くださる方がいらっしゃいましたら、東京本部までご連絡ください。



認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 NEWS LETTER『球美の里だより』 No.6

発行 認定 NPO 法人 沖縄・球美の里 東京本部

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-19-7 タックイレブン高田馬場 702 号室
TEL：03-6205-6139 FAX：03-6205-6140 メール：tokyo@kuminosato.net

ホームページ：www.kuminosato.com/

保養ブログ：http://kuminosato.bog.fc2.com/

フェイスブック：https://www.facebook.com/kuminosato.net

インスタグラム：https://www.instagram.com/kumino_sato